

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098700109		
法人名	社会福祉法人 本郷福祉会		
事業所名	グループホーム ゆすら		
所在地	福岡県みやま市瀬高町本郷2036番地1 (電話) 0944-63-2122		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 23 日	評価結果確定日	令和 3 年 3 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご本人様の生活習慣を大切に、今まで続けてこられた事を入所後も継続できるように支援しています。1日の大まかな流れはありますが、入浴時間や回数も可能な範囲内でご本人様のペースで生活していただけるように心がけています。

屋内活動では、体操・ゲーム・軽スポーツ・工作・手芸・塗り絵・書道・壁面制作・料理の下ごしらえ・季節ごとのイベント・誕生会など多彩な活動を取り入れています。

屋外活動では敷地内で花を育て、天候に合わせて園外散歩、季節ごとのドライブを取り入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 2 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

静かな田園風景の中に平屋で、建物の中に入ると吹き抜けの天井と広いホールは木材の3本の柱があり、採光の具合により壁の色彩にも工夫されている。落ち着いた雰囲気の1ユニットの事業所がある。地域の方とは散歩の時に挨拶を交わしたり、ビニールハウスで採れた野菜のおすそ分けを頂いたり、地域の祭りを見物したりすることで交流ができています。散歩の時に顔見知りになった利用者が離設された時は知らせて頂いたり、避難訓練の時に見学されたり日頃からしっかりと地域との交流ができ、地域密着型事業所として役割を果たしている。また、スタッフ全員が、穏やかで、明るく、親切であり利用者、家族とも疑似家族の感じさせる。何事も真心をこめて丁寧に対処する全スタッフの姿勢には琴線に触れるものがある。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.継続と共生 2.自立と自信 3.安心と安全 4.自己で決定 5.地域と交流の5つをテーマにスタッフの意識を統一・共有して日々実践につながるよう努めている。	事業所独自の理念があり、地元出身の理事長が地域に高齢者が増えていることで、「地域の高齢者に恩返しをしたい」との思いで理念を考え事務所内に掲げている。職員は採用時に施設長の理念に対する思いを伝え、管理者は言葉かけなど理念を共有し実践に取り組んで地域密着型の視点で地域と寄り添っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを保てるように地域内の清掃作業や行事等について、その都度連絡をいただき参加できる体制を整えている。生ごみの分別では施設に分別用桶を置いていただくように要請し、近隣の方々にも利用していただいている。本郷の社会福祉協議会の会長様より今回もチューリップの球根をいただく等、日頃より交流を深めている。	自治会に加入していないが、道路愛護や生ごみを樽で回収するため、近所の方が150m先まで運ぶのが大変なため、事業所に回収用の樽を設置したり、地域の祭りどんきやんきやんの見物、保育園児、中学生、高校生との交流、事業所主催の講座の開催や地域の方が野菜のおすそ分けや友人が遊びに来られたりして日常的に地域との交流をしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での「健康教室」へ入居者様と共に参加し、地域活動の場において認知症の方の理解をしていただけるよう努めていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止の観点から参加を自粛している状況である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。地元の民生委員・区長・老人クラブ会長・入居者様代表・家族代表・市役所より参加して頂いており、事業所からの報告などを行い様々な意見を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者、家族、行政や自治会長、老人クラブ代表者の参加があり、入退所状況や活動報告、行事報告など地域と行政との連携を行っている。、防災訓練の参加や近所の困っている方の相談、夜勤者が一人なので、何かあった時に近所に知らせるライトの設置の提案など教えて頂きサービスに生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を当事業所内で開催(2ヶ月に1回)、地域密着型サービス事業者連絡協議会(不定期開催)、柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡会(不定期開催)、みやま市地域ケア会議(不定期開催)に参加し、みやま市担当者と当事業所の取り組み等を伝え、情報交換を行い協力関係を築くよう努めている。	日頃から連絡を密にとり、介護保険課へ訪問し運営に対する相談や介護保険認定結果についての相談などして積極的に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを全職員心掛けており、些細な事でも職員間で確認を行い情報を共有している。また玄関の自動ドアや出入り口戸には、他者対応中でも気づけるように鈴をつけ対応を行っている。	事業所前の公道は交通量が多く、玄関は自動ドアであるが手動で開閉できるようになっており、開閉ボタンは玄関わきの棚に分かるように置いている。利用者、家族へは説明を行っている。居室は施錠はせず、庭への出入り口が施錠しているが、利用者は開錠して出入りしている。外出傾向がある利用者がいれば付き添いを行っている。近所の人にも理解を求め連絡をしてもらえる関係を築いている。職員に身体拘束廃止の認識を持たせるために外部、内部研修を行っている。	玄関について、少しの時間帯でも、利用者が自由に出入りできる工夫を行って欲しい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつでも資料を閲覧できるようにしている。また虐待を未然に防げるよう日頃より職員間で注意しあうように心掛けている。今後も定期的に勉強会等を通じ虐待防止の徹底に努めたい。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修及び内部研修を通じて理解と見識を深められるよう努めている。入居者様のみならず相談者についても必要性が認められた場合は、関係諸機関と連携しながら適切な対応をとりたいと考える。	権利擁護や成年後見制度について、契約時に家族へ説明を行っている。職員は内部での研修で学び理解を深め、活用できるように支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を一緒に読み合わせをしながら説明をし、契約解除の際は利用日より日割り計算となる旨を説明している。また不安や疑問が生じてないか途中や最後に確認をしている。報酬加算等による料金改定の際は事前に手紙で告知し来訪時に書面にて再度説明を行っている。機器の負担は具体的な金額を提示している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に携わる日常生活の中で会話の際の表情などで要望を汲み取れるよう心掛けている。またご家族の面会時には必ず日頃の様子や施設側の対応を報告し、ご家族の意見や要望を出るだけ反映できるよう努めている。	利用者とは日頃の雑談の時や昼食時、入浴の時などに思いを伝え、家族とは面会時や電話で管理者や職員と話す機会が多く、思いや意見、要望など聴く機会が多い。利用者がファミリーレストランやおいしいコーヒーを飲みたいとか美味しいケーキを食べたいと言われ外食へ行っている。コロナ禍で面会中止になり、窓越しや扉越しに面会を行ったり、高齢の家族の代わりに病院受診の同行を行ったり運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は月1回の職員会議で意見や要望を聴取し対応している。管理者は月1回の会議及び毎朝の申し送り時に夜間や日々の気づきを聞き、話し合いを行い反映させている。	全職員で自己評価に取り組み、管理者は月1回のグループホーム会議やカンファレンスに参加し、業務の中で職員の意見を聴く機会を設け、施設長は要望があった台風時の雨避けの玄関シャッターの設置、病院受診時の雨よけカーポート、利用者がお茶会に利用するテラスの日除けの屋根、健康管理のための加湿器の購入など必要な備品の購入等職員の気づきやアイデアを運営に取り入れ、意見を言いやすいように工夫している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を反映し、年度毎に可能な範囲で必要備品の購入や労働環境の整備・調整を行ってきた。処遇改善加算(Ⅱ)、特定処遇改善加算(Ⅱ)を算定し、手当、一時金を支給、賞与支給を行い現場職員の働きやすい労働環境の構築を目指している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人の定年は71歳と規定、性別や年齢の制限なく採用している。年齢に応じた職員の能力を尊重し、のびのびと勤務していただくよう配慮している。	施設長と管理者が職員採用の面接を行っているが、年齢や性別で排除しないようにしている。定年は71歳、シフトについては希望を取り入れられたり、有給休暇も取得しやすいなど働きやすい職場環境づくりに努め、信頼関係を築いている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回の職員会議を開催しご入居者様お一人お一人のケアについて気づいた事を話し合い、意見を出し合う機会を設けている。	管理者は人権教育に取り組み、内部研修を行っている。利用者に対する人権尊重のために、言葉使いや利用者の呼び方など実践し、啓発に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修には積極的に受講してもらい、研修後の報告書を回覧と会議時に伝達講習を行い、講義内容の共有を図り、知識・技術の向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡会(不定期開催)及び柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡会(不定期開催)に参加し研修会や情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談はご家族の場合が多い為、ご本人様と会う機会を別に設け入居について説明を受け、納得しておられるか何かがっている。生まれ育った所、住み慣れた場所をドライブしたり地元の神社に初詣に行っている事などを話し、本人の声や気持ちを引きだし、受け止めることに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	年4回発行している広報紙を見ていただきながら年間を通してのグループホームでの生活というものをイメージしていただき、不安を抱えるご家族の思いや要望を出来る限り実現できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護、リハビリ、歯科、美容、マッサージを必要・要望をもとに対応している。いきつけの美容室があれば、ご家族に連れて行ってもらい顔なじみの関係を絶やすことのないよう対応している。週に1回、訪問看護による定期健康チェックを行っていただいている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の尊厳を尊重し、コミュニケーションを取りながら、ご本人が出来ることはご本人でしていただき、日常生活を穏やかに過ごしていただけるよう務めている。また以前の生活の話がされる中で、教えたり教えられたりしながら支えあっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お手紙や電話で、ご本人様の近況や必要な物などを報告している。現在、新型コロナウイルス感染予防により面会を控えていただいている為、支払い時等に情報の交換などを行い、一緒に支えていく関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防、感染拡大防止の為、現在は友人、知人、親族の方々はもとより、ご家族の面会も控えていただくようお願いしている状況であり、電話での関係性の維持に努めている。	職員は利用者や家族から聴取して、馴染みの人や場所との関係が途切れないように把握している。自分の畑に行き草取りしたり、昔行かれていたお宮や神社へまで連れて行ったり、地域の祭りで同級生と再会されたり、友人が面会に来られたり、利用者の近所の方が「地域の昔の事を今聞いていないと分かる人がいなくなる」と定期的に来られたり希望があれば関係継続の支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓テーブルに座る時は、お互いがお互いを気にかけて、全員が揃うのを待たれる姿を見かけます。何か作業をしている時は少し遅れている方に声をかけ、手を差し伸べる姿もあり、利用者同士の共に支えあって暮らしているという関係性を感じます。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によりサービスの利用が終了した後も経過を見守った。またサービス利用が終了した御家族より親族の入居相談があった。移り住む先の関係者に対して環境の変化による不安を抱えないよう、ご本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫の情報を詳しく伝えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	新型コロナウイルス以前はお小遣いで買える範囲での買い物や図書館へ行きたいという希望時にできる限り対応し、1人ひとりの思いや希望、意向の把握が困難な時は地元の祭りや神社への初詣にお連れし知り合いの方より声をかけてもらい話をされる光景がみられた。現在は可能な限り代行させていただいている。	事業所開所以来の職員で構成されており、利用者の目の配り方、仕草等非言語の様子を通して利用者の意向をおおむね把握できている。利用者、家族や知人との雑談の中でも情報収集を行い、職員間での意見交換も活発である。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活環境、サービス利用の経過などを把握し、センター方式を使用して結果を記録している。 また日常生活の中の何気ない思い出話に耳を傾け、これまで歩んでこられた人生を少しでも知り得るように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝は自室の掃除から一日が始まる方、玄関のバンジーやチューリップに水をやる方、洗濯物を率先してたたんで下さる方など各々ご自分の能力に合わせてスタッフと共に協力しながら行う作業は、当初見ているだけだった周りの方にも良い影響が出ているのを感じます。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングや申し送りノートを活用して課題やケアのあり方について意見やアイデアを出し合い、話し合った結果をもとに作成している。居室担当制により、より細やかなケアを目指している。また、ご家族様来訪時、要望、希望を伺っている。	個人記録を時系列で詳細に記載し、職員の交代時に受け継ぎが確りなされており介護計画の基礎資料としている。居室担当制であるが、全職員が一人ひとりの利用者の状態を把握してケアプランの作成に活かしている。見直しは3ヶ月に1度なされており、容態の変化に対してはその都度迅速に対応している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤日誌、申し送りノート、毎朝・夕の申し送りにより日々の情報を共有している。 月1回のミーティング時の会話からケアの実践、結果、気づきや工夫などのヒントを得て介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診に関しては、日常をよく知っているスタッフが同行し、先生に排便困難、血圧、食事量、水分摂取量、状況を報告し血液検査の結果よりアドバイスをいただいている。訪問看護より週に1回健康チェックを全員受けアドバイスを受けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で面会を自粛する前は民生委員、ボランティアの訪問、中学生の職場体験受け入れもあり、いきつけの美容室があればご家族に連れて行ってもらうたりしていた。現在は天気がよく暖かい日には施設の周りを散歩し近所の方とお話しをする機会を設けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様希望の主治医で対応を行っている。往診を希望される方は、往診時報告を行い、ご家族が付添いで受診される方には、介護経過報告書とバイタル表を持参して頂き指示を仰いでいる。ご家族様対応で他科受診（皮膚科等）した時は主治医へ、職員対応の場合は、ご家族と主治医への報告を行っている。	利用者、家族の希望する医療機関への受診を行っている。家族の付き添いが原則であるが、その折には介護経過報告書、バイタル表、訪問看護師作成の訪問記録書を持たせている。病院によっては、利用者、家族、職員が同伴している。なお、受診の結果については家族、事業間に連絡体制が構築されており情報共有されている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝夕に、バイタルや排便確認、夜間や日中及び入浴時の様子などの申し送りを行い、変化を見逃さないようにし、日々の関わりの中でご本人様の訴え等を訪問看護ステーションへ迅速に報告・相談を行い、受診が必要な際は、ご家族へ連絡を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者及び介護支援専門員が地域連携室と連絡を密に行い、情報交換や相談に努めている。医療介護連携懇親会や病院開催の研修へ参加し関係作りを行っている。医療機関に入院される際は、ご本人様に関する情報の提供を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書において重度化した場合の対応に係る方針の説明を行っている。主治医、訪問看護と連携を取りながら、ご本人様、ご家族様の意向を尊重しご家族の気持ちの動揺に寄り添いながら適切な介護・看護が受けられるようご家族様と密な連絡を取り合い情報を共有し支援を行った。	重度化した場合の対応に係る指針を重要事項説明書の中に盛り込んでいる。利用者や家族の意向を尊重し医師、看護師と全職員とが密接に連携してチームとして終末期に対応している。過去に二件の看取りを経験している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、主治医及び訪問看護へ早急に報告を行い指示を仰いでいる。またAEDも常備し入居者様も一緒になって取り扱いを学んだり、市の研修会へも参加している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練及び通報訓練を実施しており、内1回は消防署との合同訓練を行っている。運営推進会議においても協力していただくよう積極的に働きかけている。2月には法人本体の消火訓練等への参加を予定している。	災害対策のマニュアルを作成し消防署立会いの下、年2回の訓練が実施されている。その内一度は夜間想定である。地域代表者の協力のもとで地域住民の参加が見られる。非常用食品、飲料水を3日分と備品も事業所内に備蓄されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個々の自尊心やプライバシーに配慮した声かけや対応を心掛けている。また必要に応じて居室等で一対一の対応を行っている。入居者様との会話の中で不適切な言葉遣いに気づく事もあり、その際は申し送り時に職員間で注意し合うようにしている。	研修計画表を作成してプライバシーに関する研修を必須の研修として行っている。管理者は勤務のローテーションの中に入っており、適宜点検と指示を与え職員の意識向上につとめている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様から希望を口に出される事が少ないからこそ、ご希望があれば出来る限りの対応をとるように努めている。また日頃から会話の中で自然に言っていたけような雰囲気作りを心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけを行い個々の得意な事柄をしていただく事はもちろんの事、日々の暮らしにおいて、こちらから決めつける事なく様々な誘いかけを続ける事によって、やってみたいと思っただけのようなきっかけ作りを心がけ、その人らしい日々を過ごしていただけるように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度時において女性には手鏡や櫛を、男性には髭剃りをお渡しし、ご自分でやっていただくようにしており、支援が必要と思われる際はスタッフが手助けしている。入居後間もない方の好みも少しずつ把握しつつ一緒に楽しみながら洋服選びをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日の食事は、献立を見て業者に発注し材料を調達、調理を行っている。もやしの根とり、豆の皮むき、器への取り分け、お茶の準備などのお手伝いをしていただいている。一緒に食事を楽しみ、料理についての感想や要望を会話の中に取り入れる事で献立に反映出来るよう努めている。	食事の準備、食事、後片付を利用者の意志と能力に応じて職員と一緒にしている。食材は業者からの一括購入であるが、近隣住民からの頂き物、事業所の菜園で収穫したものも供される。利用者のリクエストにこたえて同一食材を使って好みの料理につくりかえている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人1人の状態に合わせて食事の量や形態を工夫し、食事の量や水分量を毎日チェックしている。 毎月、体重測定を行い増減に注意し常に把握出来るように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきをしていただいている。 また介助の必要な方には一部介助を行っている。 希望される入居者様や必要と思われる方には、ご家族様に相談の上、訪問歯科の支援をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄時間を把握し、その方に合った排泄間隔を考慮しながら声かけを行うことで可能な限りトイレで用を足していただくことができるよう努めている。	時系列で排泄チェック表をつくり、利用者個人の詳細なデータが記載されている。それをベースに利用者の所作を読み取ってトイレ誘導を実践している。成功と失敗の試行錯誤から誘導のタイミングを調整してトイレ誘導の精度を高めている。その結果リハビリパンツから布パンツへの改善やパットを自分で代えることができるようになった改善事例もある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操やレクリエーションを日課に取り入れ、水分を多く摂っていただき、運動不足、水分不足などにならないよう努めています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	当日のバイタルを確認し、入浴の間隔が空いている方から優先的に声かけを行っている。 また声かけの仕方を工夫する事で、気分よく入浴していただくように心がけている。	入浴できる体制は毎日とられている。耳の不自由な利用者には筆談で入浴を知らせたり、利用者に入浴を勧めてもらう等利用者に適した声掛け工夫を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の日々の状況や体調に配慮し、就寝前には居室の室温を適温に保つよう心掛け、快眠できるように努めています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルをもとに、薬のセット、服薬時と各々のチェック表を使用し、それぞれ二重に確認できるようにしている。また処方に変更となった場合はその都度前述のファイルやチェック表を更新し、業務日誌、申し送りノートで全スタッフが情報を共有できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に行っているお習字では最初は苦手…と仰っていた方も今では積極的に参加され、皆さんと笑顔で楽しんでいます。またご自分のご家族様からの差入れのスイーツを一人ゆっくりと楽しんでいる時間は、まさに至福のひとつとなっているようです。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を楽しみにしている方も多く、天気の良い日はスタッフと共に朝・夕2回行かれる事もあります。ドライブも好評で出かける懐かしい景色に車内では思い出話に花が咲き、帰って来られた時の笑顔は晴れやかで何とも言えません。	天候が許せば朝夕2回近隣を散歩している。その折に畑で働いている地域住民と話しが弾み座りこんで会話をする日常がみられる。ドライブと外食を兼ねて買い物にも出かけ利用者がレジでお金を支払う取り組みも行っている。地域で有名な寺院は利用者の多くが遠足で必ず訪れた場所であり、思い出話に興じることができている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設預り金の方が5名、財布所持の方が2名おられ、財布所持の方がスタッフに買物を頼んだ際、商品とレシートとおつりを受け取り財布に戻される姿は微笑ましく預り金の方も何か欲しい物があれば、「お金はご家族からお預かりしていますよ」と言うところこり笑われます。ご家族へは毎月収支報告をしています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様にご家族に電話をかけたい時には意向に沿っている。またいつでも友人やご家族からの電話の取次ぎも行っており、どちらの場合においても遠くから見守り対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った植物と一緒に植え育てており、季節感が感じられるよう入居者様が作成したちぎり絵や作品を掲示版や壁、玄関にも装飾と一緒にやっている。また温度や湿度を測定し温度調整を行い、過ごしやすい空間作りに努めている。	季節感のある装飾がなされている。和の空間として畳を敷いた椅子も配置され、天窓をはじめ高い位置に採光が可能な窓を設置している。夏季の光に対しても配慮して程良い住環境を設けている。利用者、職員協働製作のちぎり絵や習字が飾られている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者がそれぞれにゆっくりとした時間を過ごせるようリビングにはソファ、所々に畳コーナーを設け、席を固定せずに誰もが好きな場所に座れるようにしている。</p>		
56	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>在宅時に使われていた家具やテレビ、寝具などを入居時に持参されている方もおられ、出来るだけ自宅に近い居心地の良い居室づくりに努めている。</p>	<p>家具やテレビ、ラジオをはじめ家族写真、衣装入れのボックスを自宅から持ち込んでいる。在宅時の延長としての生活を継続の工夫がある。</p>	
57	—	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各所に手すりを設け、入居者が行き来する動線には物を置かないよう注意して整理整頓に努めている。</p>		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない